

尼崎市教育委員会 10月臨時会 議事録

1 開会及び閉会の日時

令和3年10月11日 午後4時7分～午後6時10分

2 出席委員及び欠席委員

出席委員等	教 育 長	白 畑 優
	教育長職務代理者	徳 山 育 弘
	委 員	太 田 垣 亘 世
	委 員	中 平 了 悟
	委 員	正 岡 康 子

3 出席した事務局職員等

教 育 次 長	梅 山 耕 一 郎
教 育 次 長	東 政 信
管 理 部 長	西 村 和 修
学 校 教 育 部 長	増 田 裕 一
学 校 教 育 部 次 長	橋 本 貴 宗
学 校 給 食 担 当 部 長	山 木 聡
教 育 総 合 セ ン タ ー 所 長	平 山 直 樹
社 会 教 育 部 長	安 田 博 之
企 画 管 理 課 長	西 田 啓 行
職 員 課 長	中 道 隆 広
学 び 支 援 課 長	大 森 康 充

日程第1 議事

(1) 議案第50号 職員の人事について

日程第2 協議・報告

(1) 尼崎市教育振興基本計画の進捗と今後の取り組みについて

(2) 令和3年度全国学力・学習状況調査結果報告について

午後4時7分、教育長は開会を宣した。

白畑教育長 本日の日程につきましては、配布いたしております日程表のとおりです。  
日程第1「議事」の「議案第50号 職員の人事について」は、会議規則第6条の2第1項第1号、すなわち『教育委員会に属する職員の任免その他の身分取扱いに関する事件』に該当するため、公開しないことが適当であると考えますが、いかがでしょうか。

教育委員 異議なし

白畑教育長 異議なしと認めます。よって、「議案第50号」は、会議規則第6条の2第1項第1号に該当するため、公開しないことと決しました。なお、公開しないことと決しまし

た案件については、日程第2「協議・報告」の「令和3年度全国学力・学習状況調査結果報告について」の後に審議することといたします。それでは、これより日程に入ります。まず、日程第2「協議・報告」の「尼崎市教育振興基本計画の進捗と今後の取り組みについて」を議題とします。提案理由の説明を求めます。

西田 企画管理課長。

企画管理課長

企画管理課長でございます。8月4日に開催されました第1回尼崎市総合教育会議において、市長から次回の総合教育会議では来年度予算への反映を見込んで、教育振興基本計画の進捗と今後の対応を議題としたいとの発言がございました。本日第2回の総合教育会議が開催されましたが、市立尼崎高等学校の改革のみが議題となりましたので、次回の第3回総合教育会議においては、本議題をご協議いただく予定としております。本日の臨時会では、「尼崎市教育振興基本計画の進捗状況と今後の対応について」を議題とし、教育委員の皆様にご協議いただくものでございます。それではお手元の資料をご覧ください。第3回総合教育会議当日も本日お配りの資料でご議論いただきたいと思いますと考えております。まず、1ページ目には「1 計画の概要」を記載しております。改めまして、本市の教育振興基本計画の計画期間は令和2年度から令和6年度までの5年間としており、現在は計画の2年目に当たります。真ん中の表では、計画全体のスケジュールを整理しており、令和2年度から教育委員会事務点検評価を実施する事により、PDCA サイクルの考え方にに基づき、毎年度取り組みの振り返りを行っております。なお、表の下側ですが、計画の推進に当たっては、計画期間である5年間のうち1、2年目までの実施を目指す取り組みと主に3、4、5年目で実施する取り組みの2つに分けて進行管理をしており、1、2年目の計画期間の早期に実施を目指す取組の主なものといたしましては、「幼保小連携推進事業の全市展開・地域に応じた特色化」、次に「中学校版学力向上の手引き」の作成などの取組を計画に掲げております。また、3、4、5年目の計画期間内に実施を目指す取組の主なものといたしましては、「児童生徒個々人の習熟度に合った課題の出題などができるデジタル教材の活用」、「不登校児童生徒のニーズに応じた、特色ある「教育支援室」の増設」などの取組を計画に掲げております。2ページ目には、「2 計画の進捗状況」として、これまでに実現した主な取組を記載しております。計画期間の早期に実施を目指す取組のうち実現した取組といたしましては、一つ目、「「授業デザイン3つの視点」(中学校版学力向上の手引き)の策定」、また下から三つ目、「スクール・サポート・スタッフの全中学校への配置」、またその二つ下、「モデル校における「コミュニティスクール」の導入」などがございます。次にその下、計画期間内に実施を目指す取組のうち、実現した取組といたしましては、上から二つ目、「特色ある「教育支援室」(ほっとすてっぷSOUTH、ほっとすてっぷオンライン)の増設」、また一番下、「会計の透明性の確保、保護者の利便性向上などに向けた学校給食費の公会計化」などがございます。最後に資料の3ページ目をご覧ください。3ページ目には、「3 今後の対応」として、次年度向けに実施を目指す主な取組を記載しております。主なものといたしまして、一つ目、「英語教員向けの研修の充実による英語教育のさらなる推進」、またその下、「児童生徒による主体的なスマホルール作りの導入など、情報モラル教育の充実」、一番下には、コミュニティスクール導入校の拡大による「地域とともに

ある学校づくりの推進」などの取組を記載しております。これらの取組は令和4年度向けの教育委員会の政策および予算要求事項として、今後財政当局と調整を進めていく予定のものでございます。以上、資料が大きく3部構成としており、第3回総合教育会議では、本資料を基にご議論お願いしたいと考えております。簡単ではございますが、「尼崎市教育振興基本計画の進捗状況と今後の対応について」の説明を終わります。よろしくお願いいたします。

白畑教育長 説明は終わりました。これより質疑に移ります。発言はございませんか。

中平委員 先ほどの第2回総合教育会議でも、市立尼崎高等学校の改革について大変重要なテーマとしてとりあげられてきたが、本市においては、幼稚園と高校を1つの担当課で担っているが、今後高校へのきめ細やかなサポートをすること考えた時に、体制の見直しや追加の人員配置といった手立ては考えているか。

学校教育部次長 現在、高校の担当につきましては、幼稚園・高校企画推進担当が担っていますが、幼稚園は園児数が定員を大幅に下回っている状況の中で、そのあり方を改めて検討していくという重要なミッションがあり、高校は市尼改革も含めて、特色づくりを進めていく必要があります。幼稚園と高校を一つの担当課で所管することは、課長の管理スパンも過大であり、現状の体制ではなかなかそれぞれの推進力が伴ってこないのではないかという懸念があることから、体制については検討中でございます。

白畑教育長 本日午前中に開かれた議会の決算特別委員会でも、組織を考えるべきだと言うご指摘がありましたので、検討する必要があると考えております。

正岡委員 その検討の方向性はどのようなものか。

学校教育部次長 高校と幼稚園を1つの担当課で担うのではなく、分離しても差し支えないのではないかという考え方がベースにございまして、組織を分離するとともに人員配置も含めて組織体制を強化していくような事を検討している所です。

白畑教育長 元々は、幼稚園も高校も学校教育課の中に担当がおりましたが、改革等を進めていくためには、担当のみでは難しいのではないかと言う事で現状の体制となっております。ただ、現状の体制で課題等もありますので、検討する必要があると考えています。

正岡委員 学校教育課の中にあった時は、担当が1人ずついていたのか。

白畑教育長 担当の指導主事が1人ずつおりました。

中平委員 体制の見直しはどこを期限に目指して動いているのか。

学校教育部次長 来年度向けの組織改正に向けて今調整を進めているところでございます。

徳山委員 どれぐらい人を増やせそうなのか。

白畑教育長 これから調整することになります。

中平委員 高校側もきめ細やかなコミュニケーションを求めていると思うし、次長級が行き来すると言うのも現実的には難しいと思うので、週に何度か等、定期的に高校を行き来して、コンタクトを取れるようなフットワークが軽くなる配置にしていきたい。もう1点、社会教育について伺うが、コミュニティスクールを今回重点的に挙げているが、学校教育の外の場面における社会教育の取組についても挙げる必要があると考えるがいかがか。

社会教育部長 新規事業としては挙げておりませんが、学校運営協議会に関わっている地域課とも一緒になって、人権をテーマとした取組等も行っておりますので、学校の中だけではなく総合的にやっていきたいと思っています。

徳山委員 次年度向けの実施のところで市尼改革の推進があるが、現状は市尼の関係者との連携が取れていない様に思っている。教育委員になるまでスクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーをしてきたが、学校によってスクールソーシャルワーカーも学校への入り方が違うと感じている。学校には他にもスクールカウンセラー等もいるので、市尼に関わっている方々から話を聞く機会を与えてもらえれば、市尼の中の事がよくわかると思う。先日、教育委員だけで校長や教頭、PTAの方から話を聞いたが、やはり一部の人からしか話を聞けていないと思う。スモールスタートでいいので、色々な関係者から話を聞く機会を設けてほしい。今日、初めて校長から体罰の取り組みに関する資料を貰ったが、市尼体罰への取り組みの意識改革はまだまだ途上だと思う。やり方もわかっていないと思うので、教育委員会は、それを進めるためにバックアップする必要がある。とにかく不幸な子どもが出る事は絶対に避けなければならない。先ほどの校長の話聞いていても、スピード感に欠けると言う思いが拭い去れない。子どもの意見を吸い上げる必要もあると思うので、実情をとにかく把握していく事が重要である。そのための連携の仕組みを作る必要性を強く感じた。

太田垣委員 「見える化マップ」の3ページから、授業テーマが紹介されているが、この授業テーマは何か課題等があったから挙げられたテーマなのか、文科省ベースで挙げられたテーマなのか。推進や改革に向けて、関わる人たちとのスピード感というのがすごく気になるところだが、この事業を進めるにあたり、どのような話し合いや検討を行い、ベースを作っていくのか。

学校教育部長 中学校は今年度から新学習指導要領の全面实施と言う事で、学習指導要領の求める主体的・対応的で深い学びを実現していくために、まずしっかり授業の目当てを持ち、課題設定を適切に行い、しっかりと授業をふり返る事によって授業の改善を進めていこうということで「見える化マップ」といった資料を作成しているところでございま

す。これにつきましては各校様々な事情がある中でも共通理解を持つようにしており、指導主事が「授業デザイン 3つの視点」の説明や進捗について現場の先生とも色々と意見交換をしながら進めているところでございます。

太田垣委員 資料の中で、市尼と琴ノ浦高校の特色作りの記載はあるが、双星高校の記載がない。新規ではなく、もう進められているのか。

学校教育部長 双星高校は専門学科においてそれぞれ特徴にあった取り組みをこれからも進めていくということと、音楽類型等についても豊かな人間性を育てていくというような形で、地域との連携等も進めております。

学校教育部次長 双星高校につきましては、スマート専門校の実現を目指し、様々な ICT の最先端の機器を入れて社会に出て活躍できる人材を育てて行こうという事で、令和2年度の補正予算で、高性能パソコンとプロジェクターの予算を計上し、令和3年度に繰り越して執行していくことにしております。したがって、令和3年度向けの主要事業としては計上していませんが、双星高校においても特色づくりは進めてまいります。

中平委員 資料について、一覧化したような資料があれば、全体像が把握でき、着手状況やそれぞれの重要度、緊急度を可視化できるのではないかと考えている。

白畑教育長 資料については一度見直して、整理させていただければと思います。

徳山委員 「次年度向けに実施を目指す取組」の中で、英語教育は小学校の視察に行って、どのような事を行っているのか理解することができた。一方でスマホール作りや Stop it の授業の見学など、視察をしてイメージの理解を深めていきたい。インクルーシブ教育や市立幼稚園のあり方については、一定の進捗があると認識している。

正岡委員 市尼に関して先ほど校長先生のスピード感が足りないとの話があったが、学校現場の特徴として、トップダウンで意思決定をすることが難しく、先生方をうまくまとめながら改革を進めていかなければならない。また、市立の3校は、講師の割合が非常に高く、文書作成等の事務処理など慣れない部分があると思う。そういった学校現場の特徴も理解していく必要があると考える。

徳山委員 もちろん学校現場の特徴は重々承知の上で申し上げている。学校の中の事は基本的に学校に任されるべきと考えているが、子どもの命に関わることだけは絶対に避けなければならない。3年で卒業していくまでに大きな心の傷を残してはいけない。そういったことからスピード感と申し上げている。

正岡委員 柳本顧問の今後の勤務については、どこが管理するのか。

管理部長 具体的にどうするかという結論はまだ出ていません。今後検討していく必要があると考えています。

正岡委員 検討というのはご本人と話し合いをされるということか。

管理部長 事務局がこうしたいという案を作成し、ご本人ともお話をしながら進めたいと考えています。

正岡委員 今すぐにはしないのか。8月はオリンピックやパラリンピックがあって出勤されておらず、9月は1日も出勤実態がないと伺っている。今月もまだ出勤されていないのではないか。

管理部長 現在は、学校で勤務の事務処理をしており、毎月末でないと職員課に上がってきませんので、現時点では出勤実績はわかりません。こうした事務処理の方法について、これから検討していくところです。

中平委員 今回の総合教育会議が25日に迫っているので、私は本日の協議の焦点を会議資料の確認や会議で発言する内容の確認に絞った方が良いと考える。

白畑教育長 資料はこれからご指摘があったところを踏まえて修正したいと思います。またそこから、ご意見等をいただけたらと思いますがいかがでしょうか。

教育委員 承知した。

白畑教育長 他に質疑はございませんか。

白畑教育長 質疑がないようですので、本件についての報告は終わります。次に、日程第2「協議・報告」の「令和3年度全国学力・学習状況調査結果報告について」を議題とします。提案理由の説明を求めます。  
大森 学び支援課長。

学び支援課長 それでは、「令和3年度全国学力・学習状況調査結果」につきまして、ご説明させていただきます。この調査は、令和3年5月27日に実施したもので、8月24日に文科省よりデータの提供がありました。それでは、「結果報告」の1ページをご覧ください。1に「調査目的」、2に「実施対象となった学年と調査人数、調査内容」、3に「実施日」を記載しています。それでは、4をご覧ください。「教科に関する結果の概要」として、資料の中ほどに記載しております表1をご覧ください。小学校と中学校における今年度の平均正答率と正答数とを、全国と比較しております。令和3年度の小学校国語をご覧ください。尼崎市の正答率は63%、全国の正答率は65%で、その差は-2ポイントとなっております。その他の教科をみますと、全国平均と比較して、小学校算数においては±0ポイント、中学校国語は-4ポイント、中学校数学は-2ポイントとなっております。表2は、「平成28年度以降の全国との差の推移」を掲載しております。いずれの学年・教科も±5ポイントの範囲で推移してお

りますが、小学校については国語・算数ともに全国との差は小さくなっておりま  
す。2ページにそれをグラフ化したものを掲載しております。平成30年度までは、出題  
形式が知識・技能等に関する内容（A問題）と、活用する力等に関する内容（B問題）  
に分かれていたものが、令和元年度からは、出題形式を一体的に問う形式となったた  
めです。また、令和2年度は中止となっております。では、3ページから、教科に関  
する調査についてご報告いたします。まず、小6の国語について、一番上の平均正答  
率の横向きのグラフ2本は、左から「正答率」「誤答率」「無回答率」の尼崎市と全  
国との比較となっております。真ん中の正答率分布のグラフをご覧ください。全国の  
ピークが11問となっているところ、尼崎市のピークは10問となっております。一  
番下の学習指導要領の内容別の正答率の比較を見てみますと、「書くこと」が全国と  
同じですが、「話す・聞く」と「読む」は全国から-2ポイントとなっております。  
右のページは、問題の中で全国と比べて正答率の差が大きかったものを順に2問抽出  
して、その分析と指導上意識したいこと等をまとめたものです。続いて5ページ、小  
6の算数です。小学校は、国語・算数ともに無回答率は全国より低いです。真ん中の  
正答数分布のグラフでは、尼崎市のピークは15問となっており、全国は14問です。  
一番下の学習指導要領の内容別の正答率の比較を見てみますと、「図形」が全国から  
2ポイント高く、他は全国とほぼ差はないと捉えております。右のページは、国語と  
同じく問題の中で全国と比べて正答率の差が大きかったものを順に2問抽出している  
のですが、データの活用や図形であっても基本的な性質を理解した上で活用するとい  
う点が若干弱い傾向にあります。次に7ページ、中3の国語です。無回答率が、全国  
を上回っております。正答数分布のピークは、全国が10問、尼崎が9問となってお  
ります。一番下の学習指導要領の領域等では、全ての領域において全国と差が見られ  
ます。次に9ページ、中3の数学です。無回答率が全国を3ポイント上回っておりま  
す。正答数分布につきましては、ピークこそ全国と同じですが、12問以上の分布が  
全国より低くなっております。一番下の学習指導要領の領域等では、全ての領域にお  
いて全国と差が見られます。次に11ページからは、児童生徒質問紙調査における主  
な指標を平成25年度、平成29年度、令和3年度で経年比較し、学習状況や生活状  
況等の変化を調べたものです。質問項目はもっとたくさんあるのですが、尼崎市とし  
てずっと追ってきた項目を中心に見ております。まず、「算数、数学の勉強が好きだ」  
が小学校で継続して向上しております。全国との差も小さくなり、今回若干超えてお  
ります。真ん中の「毎日同じくらいの時刻に起きている」は、小学校で少しずつ改善  
しておりますが、小学校の方が中学校より低い傾向があり、これは全国でも同じ傾向  
です。「携帯電話やスマホ等を持っていない」についても、当初、尼崎市は所持率が  
全国を大きく上回っておりましたが、今は全国との差が随分小さくなっております。  
特に中学校では、尼崎も全国も、ほとんどの生徒が所持しているものと思われま  
す。次に、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」は、小中ともに大きく改善して  
おりますが、まだ全国よりも低い状況です。「普段、授業時間以外に1時間以上勉強  
をしている」についても、中学で大きく改善しましたが、まだ全国よりも低い状況で  
す。12ページの「いじめはどんな理由があってもいけない」については、いじめ防  
止の取組等を学校、教育委員会が懸命に進めてきた結果と思われま  
すが、ほぼ全国と同じ数値です。「学校に行くのは楽しいと思う」は全国より5ポイント以上差があり、

中学校では差が若干増えております。「自分にはよいところがあると思う」も、各校における自尊感情向上の取組の成果であると思われます。小中ともに増加傾向です。

「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」は増減がありますが、全国とは差が見られる状況です。最後の2問、社会との関わりの「今住んでいる地域の行事に参加している」は、例年、全国と大きな差が見られます。全国テストですので、郡部の学校も受けており、その影響も少なからずあるものと思われますが、周辺他都市と比較しても、尼崎市は低い傾向にあります。「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある」は向上しておりますが全国も増加傾向にあり、その差が埋まっていない状況です。次に13ページです。学力調査と質問紙調査の関係を「ICT活用」、「主体的な学び」、「対話的で深い学び」、「新型コロナウイルス感染症による影響」の4つの領域に関する項目を抽出して調べてみました。まず、「ICTの活用」では、小学校は41%、中学校は33%の児童生徒が週に1回以上ICT機器を活用しており、右側のグラフでは小学校と中学校でどういう使い方をしているかを比較しているグラフなのですが、主に一人でICT機器を活用する場面が多い状況です。また、90%以上の児童生徒がICT機器は勉強の役に立つと考えており、そう考えている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にあります。14ページの「主体的な学び」では、特に中学校において、主体的に学習に取り組んでいる生徒の割合が増加しており、主体的に取り組んでいる児童生徒の方が、平均正答率は高い傾向にあります。「対話的で深い学び」では、少し興味深い結果が出ております。「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」に、肯定的に回答した児童生徒や学校は増えていく傾向にあるのですが、児童生徒と学校では、意識に差が見られる結果となりました。たとえば、令和3年度の中学校を見ても、肯定的に見ている生徒は67.6%に対して、先生方は94.2%と肯定的に回答しており、少し差があります。今後、児童生徒がより実感できる「対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う必要があると考えます。15ページでは、新型コロナウイルス感染症による影響を調べております。「新型コロナウイルスの感染拡大で学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができていましたか」という質問では、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国より低くなっております。また、正答率との相関を見ても、肯定的に回答した児童生徒の方が、正答率が高い傾向にあります。「新型コロナウイルスの感染拡大で学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか。」という質問でも、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国より低くなっております。また、正答率との相関を見ても、肯定的に回答した児童生徒とそうでない児童生徒にほとんど差は見られない結果となりました。これらのことから、今後、学校が長期の臨時休業期間に入った場合でも、児童生徒が計画的に学習することができるよう支援していくことが必要であると考えております。16ページからは、全ての児童生徒質問紙の結果を示しております。ひとつひとつご説明はいたしません、たとえば19ページの上から2つ目の主体的な学びに関する質問ですが、先ほどは経年変化と学力との相関をご説明いたしましたが、全国との差という部分でも、大きな部分がございます。こういったところも見て、学校の取組改善に生かして行ってほしいと考えております。なお、この資料につきまし



ては、委員の皆様の意見を頂戴し、政策推進会議を経て公表させていただくことを申し添えておきます。

白畑教育長 説明は終わりました。これより質疑に移ります。発言はございませんか。

白畑教育長 小学校の算数が全国平均に初めて並びました。

徳山委員 毎年報告を聞いていて、やっぱり秋田は常にトップにいる。本市は13年前は平均よりだいぶ下だったが、やっと平均に近づいてきた。

学び支援課長 最初は-13ポイントのものもあり、そこから、放課後学習・帯学習など小・中学校が懸命に取り組みを始めて、成果が出てきたと捉えております。今回の小学校の算数を足がかりとしたいと考えております。

中平委員 この調査はどこが行っているものなのか。

学び支援課長 調査主体は文科省でございます。

中平委員 データの分析等については、全国一律のものなのか。自治体別で分析内容について要望はできるのか。

学び支援課長 全国一律のデータで、要望はできません。

中平委員 学力の結果は非常に重要だと思っている。特に尼崎においては若い世代のファミリー層が増えるなど環境が変わってきている部分もあり、所得や住民層の変化によって見かけ上の結果が変わることも大いにあると感じている。学力調査の結果が他局が持っている情報とどう関連しているかの分析が非常に重要と考えているがいかがか。

学び支援課長 あまっこステップアップ調査のデータを学びと育ち研究所に提供しております。学びと育ち研究所では、各分野の著名な先生方が他局のデータ等とクロス分析しており、日頃から研究の結果は注視していきたいと考えております。

正岡委員 学校によって学力のボリュームゾーンは異なると思うが、それに基づいて学校独自の取り組みはされているのか。

学び支援課長 おっしゃる通り、ボリュームゾーンは各校ありまして、それを把握するための一助となるのがあまっこステップアップ調査の4層分析でございます。たとえば、D層は基礎・基本の徹底が必要になります。C層とB層をボリュームゾーンとする学校は、応用・活用問題もとり入れながらの取り組みになってくるかと思えます。そのように各校分析しながら、独自の取り組みをしているところでございます。私が学校訪問をした中では、ある学校で放課後学習をベーシックコースとチャレンジコースの2コースにわ

けているところもございました。また、コース別でなくても、個別に課題を与えている学校もあります。学校に応じた独自の取り組みが進んでいるものと考えております。

正岡委員 独自の取り組みをされている学校は割合的にはどのくらいなのか。

学び支援課長 帯学習を学校毎に応じて実施しておりますので、そういう意味では100パーセント独自の取組をしていることとなります。先ほど、顕著な例をお話しさせていただきましたが、他には保護者と共通認識の上で学習プランを作成している学校もあります。あとは、今年度から始まりました学習支援ドリルの活用に注力している学校もあり、それぞれ取り組んでいる状況でございます。

正岡委員 教科については、算数が主になるのか。

学び支援課長 小学校は、国語と算数が主でございます。中学校は、5教科に取り組んでいるところが多いです。

徳山委員 なにか変わった特徴や頑張っていると感じる学校はあるか。

学び支援課長 ある中学校ですが学力が向上傾向にある上に、子どもの意識のところも全国比ですごくいい結果が出ております。成績上位校と言われるような学校でも、子どもたちの意識が低いところもありますが、その学校では学習の下支えとなるような人間関係づくりを意識した学校経営に力を入れておられるそうです。たとえば、自殺防止のためのGRIPに取り組むなど、とてもよくなってきており、それが学力に良い影響を与えていると思っています。

太田垣委員 親の所得などの他の要因が学力に非常に大きく影響するというようなことは、社会的に明らかになっていることだと思う。勉強をする環境をよくするような受け皿みたいなものを考えると、学力に大きく影響する要因を明らかにすることが、すごく大切だと思う。また、学力の結果が数字化されているので、先生方がこの数字を見たときに何かプレッシャーを感じるなど、会社で言う営業成績のような位置づけになり、ネガティブな要因にならないのかと気になるがいかか。

学び支援課長 そういったこともございますので、この調査の前に必ず調査の趣旨を校長会・教頭会等で学校にお伝えしているところがございます。この調査目的はPDCAサイクルを回すためのものであり、決して比較対象とするための資料ではないということは毎年お伝えしております。

中平委員 この調査を教育委員会の方から学校現場に渡すときに、結果を踏まえて今後どうするかという改善策をうまく伝えていくことが必要だと思うが、渡す際は要点や市教委の方針等を添えて渡しているのか。

学び支援課長 必ずこちらからの説明をつけて、この資料をお渡しすることにしています。

教育総合センター所長 元々、全国学力・学習状況調査は、国が施策の経過、結果を見るために始めたもので、同時に各市町もこれを活用するというものでした。何年も調査を繰り返すことで学校の状況がわかってくるというのがこの調査の目的で、国としては施策、市としては学校の状況がわかってくるが、小6、中3を対象としているため子ども個人を追うことはできません。そこで平成30年に開始したあまっこステップアップ調査においては、小1から中2までを対象として個人がどう伸びたかを見ております。あまっこステップアップ調査の方で学校ごとに細かく分析をしながら策を打っております。

中平委員 学習効果を図る上では、あまっこステップアップ調査の方がより適切な数字が出るということと理解した。

白畑教育長 他に質疑はございませんか。

白畑教育長 本件は10月20日の政策推進会議に提出し、11月1日の市議会の文教委員協議会で報告させていただく予定です。それでは、質疑がないようですので、本件についての報告は終わります。ここからは非公開といたしますので、傍聴の方はご退席願います。

~~~~~以下 議事の概要は非公開とする~~~~~

(「議案第50号」の内容については、職員課が別途作成)

白畑教育長 以上を以って、本日の日程は全て終了いたしました。  
これをもちまして、尼崎市教育委員会10月臨時会を閉会といたします。

以上、尼崎市教育委員会10月臨時会の議事の全部を終了したので、午後6時10分、教育長は閉会を宣した。

尼崎市教育委員会10月臨時会において、以上のとおり議事が行われたことを記録します。